



【おもちゃの選び方と大人の関わり方】

良いおもちゃとは、子どもが自発的に、主体的に関わり、面白いと思い、もう一度遊んでみたいと思って繰り返す事の出来るものです。そして、“もう一度”の中に子どもの「意欲」が育っていきます。そこで、良いおもちゃの選び方や、大人の関わり方等を、紹介します。

<おもちゃ選びの上で考えて欲しいこと>

【子どもの遊びを高いレベルで真剣に考えています】

「Spiel gut」=スピールグート（訳：良く遊べ）と書かれたシール（右の図）があります。

このシールを発行しているのは、ドイツにある「子どもの遊びと玩具」審議会という団体です。この会は、子どもとその遊びに関する、全ての専門領域の人々によって構成されています。教育学や、心理学、社会学、精神療法、医学、デザイン、建築、情報学等々の専門家たちのボランティア集団です。ドイツ国内に入手出来る全てのおもちゃについて、毎年専門的な角度から研究し、スピールグートのシールを貼って良いおもちゃか判定しています。

おもちゃを選ぶ際、このシールを参考にしても良いのではないのでしょうか。



「子どもの遊びと玩具」審議会から判定を受けたシール

「子どもは刺激に反応する。」
このことに対する考え方・対応の仕方の違い

| | 日本 | ヨーロッパ (ドイツ・北欧) |
|-------------|----------------------------|------------------------------|
| 遊び方 | 子どもが遊ぶ (刺激に反応する) | 子どもと大人が遊ぶ (刺激をコントロールする) |
| 材質 | 色・音・形など刺激の強いものを与える | 刺激の少ないものから与える |
| 構造 | 仕掛けの面白いもの、複雑に組み立てられたものを与える | 基本的なもの、原理的なものから与える |
| 動力 | 電動的(エレクトロニクス化したもの)なもの | 手動的なもの |
| おもちゃと子どもの関係 | おもちゃが動いて子どもを遊ばす (受動的) | 子どもが自分から働きかけて遊ぶ (自発的、主体的) |
| あそび方 | あそび方がマニュアルに限定されている | 自由に遊ぶ |
| 形 | イメージ・形が出来上がっているものが多い | 単なる部品の集合体のものが多い |
| ねらい | 大人をわずらわせないで、かしくあそばせる | 自分で感じて、考えて、行動させる。経験を大切にさせる |
| 代表的なTOY | テレビを中心としたおもちゃ | 積み木を中心としたおもちゃ |

【日本とヨーロッパの考えと対応の違い】

「子どもは遊んで育つ」この当たり前な事を真剣に考えるヨーロッパのおもちゃ。日本とヨーロッパのおもちゃ作りや考え方の基本は全く違いがあります。

右の表を見てみると全く違った文化の上でおもちゃが作られ売られ与えられている事がわかります。刺激を少なくすることの教育的な意味は子どもの内面から出てくる意欲を大切にすることです。その反対に刺激に反応する遊びが多くなれば多動的な落ちつきのない子どもになるかもしれません。

単に良し悪しの問題ではなく私たち大人が自覚してバランスを取ってあげる事が大切なのです。

<大人の関わり方>

ポイント① <大人がしてあげること>

子どもたちの世界には、テレビをはじめ受け身だけで楽しく過ごせる遊びが沢山あります。“物”が勝手に笑ったり、動いたり、おもちゃが自ら刺激を発散する事が多い為、おもちゃが放つ刺激に反応するだけの遊びの量をコントロールしてあげましょう。子どもは刺激に反応する存在ですから、子どもにおもちゃ選びの全てを任せると刺激物だらけになります。

ポイント② <子どもの遊び>

「ひとりで遊ぶ」この意味は、ひとりでいるという事だけでなく、自分自身と向き合っているという事が大切なポイントです。子どもがひとりでコツコツと何かを作り上げている時は、自分の中にあるイメージと、自分の思い通りにならない未熟な自分の筋肉や技術と向き合っています。絵を描く事や工作、ビーズ遊び、積み木、ブロックなどは自分と向き合う遊びと関係しています。集団遊びを考える前に、子ども自身の内面を育てる遊びを大切にしながら遊びを考えてあげてください。

ポイント③ <おかたづけ上手になるコツ>

子どもは、大好きな遊びを何度でもしたいものです。ですから、「おかたづけ」は今度遊ぶ準備のようなものです。次に遊ぶとき、見やすく、選びやすく、取りやすく戻しやすいおもちゃのかたづけ方が大切です。子どもが自分で遊びやすいようにレイアウトすることを一緒に考えてみて下さい。定物定位置…いつものところにある事は、子どもにとって大切です。三歳までの子どもは自分で自分の遊びの空間を十分に把握できませんから、大人がかなり助けてあげる事が大切です。

「きちんときれいに」かたづいた景色をどれほど見て育ったかが、「きちんときれいに」の基本になります。

